

田んぼアートの 制作過程

色とりどりの稲で描かれる田んぼアートは、一見すると田んぼいっぱいに見えますが、その完成までには多くの工程と人の手が重ねられています。

図柄を決めるところから始まり、種まき、代掻き、測量、田植え、補植、管理、稲刈りまで、作業は長い時間をかけて進められます。

毎年多くの来場者を魅了する田んぼアートは、決して一日で出来上がるものではありません。作品が生まれ、役目を終え、次の年へつながっていくまでの舞台裏を追いました。

図柄決定・設計図作成

実行委員会で話し合い、その年の図柄を決定します。
決定した図柄が、遠近感を含めてやぐらから見たときにもきちんと見えるよう、コンピューターで設計図を作成します。
このとき、稲の配色も決めます。

田おこし

田植えに向けて、冬の間に固くなった田んぼの土をトラクターで掘り起こし、空気に触れさせながら耕します。稲がよく育つ環境を整えるための第一歩です。



種まき・苗づくり

稲の種もみを育苗箱にまき、田植えができる大きさまで苗を育てます。今年は8種類の種をまきました。



代掻き・機械田植え

水田に水を張り、土を細かく碎いて泥状にし、表面を平らに整えます。手植えをしない箇所は機械を使って一気に植えていきます。



測量・棒立て

設計図の座標を水田に正確に再現する重要な工程です。測量機を用いて計算したポイントに棒を立て、目印のロープを張って田植えの輪郭をつくっていきます。今年はおよそ1,200本の棒を立てました。



田植え

「田植祭」として、実行委員会だけでなく、地域住民や有志の皆さんを募り、手作業で田植えを行います。図柄のとおり張られたロープに沿って苗を植えていきます。
今年は、東京や大阪など市外からもおよそ200人が参加しました。



補植

田植祭で植えた苗のうち、植え過ぎていたりところや植えられていないところを修正します。きれいな絵柄を浮かび上がらせるための大切な作業です。
鑑賞が始まった後も、気になる箇所は随時手直ししていきます。



棒抜き

田植えの際に絵柄のガイドとして立てた棒や張ったロープを撤去し、作品を完成へと近づけます。



やぐら鑑賞

会場に田んぼアートを見渡せる高さおよそ7メートルのやぐらが設置され、上から迫力ある作品を鑑賞できます。
見頃の時期には、幻想的な夜の田んぼアートを楽しめる「ライトアップ鑑賞会」も開催されます。



やぐら鑑賞

期 間 ～8月16日(日) 午前9時～午後4時
鑑賞料 大人200円、小学生100円

ライトアップ鑑賞会

日 時 7月18日(土)、19日(日) 午後6時30分～8時30分
鑑賞料 大人200円、小学生100円

／ 今年は8種類の古代米を使用しています！ ／



峰の雪もち あかねあそび 奥羽観 べにあそび 短観紫稲 ゆきあそび 黄大黒 観稲

そして次の年へ…

稲刈りで収穫した米の一部は、翌年の種もみとして活用します。

稲刈り

「収穫祭」として、実行委員会だけでなく、地域住民や有志の皆さんも参加し、手作業で稲を刈ります。
鎌を使って、稲を1束ずつ丁寧に刈っていきます。



日 時

9月6日(日) 午前10時～

参加費

500円
(軽食・お茶付き)

